

令和 10 年度第 2 年次編入学試験に係る変更について（予告）

令和 7 年 10 月
愛知教育大学

令和 10 年度第 2 年次編入学試験において、以下のとおり募集専修・入学者選抜方法・免許教科について変更します。

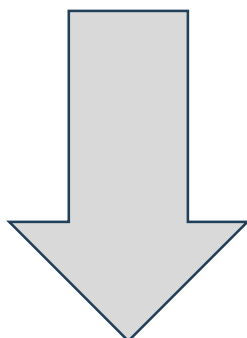
1. 募集専修

令和 8 年度第 2 年次編入学試験選抜(現行)

課 程 ・ 専 攻 ・ 専 修				募 集 人 員
学 校 教 員 養 成 課 程	義 務 教 育 専 攻	I C T 活 用 支 援 専 修		8 名
		教 科 指 導 系	算 数 ・ 数 学 専 修	
			理 科 専 修	
			ものづくり・技術専修	
	教 高 育 等 専 学 攻 校	開 教 発 科 系 学 習	数 学 専 修	
			理 科 専 修	

（注）

各専修の受け入れ数の上限は、義務教育専攻 ICT 活用支援専修 2 名，義務教育専攻算数・数学専修及び高等学校教育専攻数学専修で 3 名，義務教育専攻理科専修及び高等学校教育専攻理科専修で 5 名，義務教育専攻ものづくり・技術専修 2 名とします。



1. 募集専修

令和 10 年度第 2 年次編入学試験選抜（変更後）

課 程 ・ 専 攻 ・ 専 修				募 集 人 員
学 校 教 員 養 成 課 程	義 務 教 育 専 攻	I C T 活 用 支 援 専 修		8 名
		教 科 指 導 系	算 数 ・ 数 学 専 修	
			理 科 専 修	
			ものづくり・技術専修	
	教 育 高 専 等 攻 学 校	開 教 発 科 系 学 習	数 学 専 修	
			理 科 専 修	

（注）

各専修の受け入れ数の上限は、義務教育専攻 ICT 活用支援専修 2 名，義務教育専攻算数・数学専修及び高等学校教育専攻数学専修で 3 名，義務教育専攻理科専修及び高等学校教育専攻理科専修で 5 名，義務教育専攻ものづくり・技術専修 2 名とします。

2. 入学者選抜方法

令和8年度第2年次編入学試験選抜(現行)

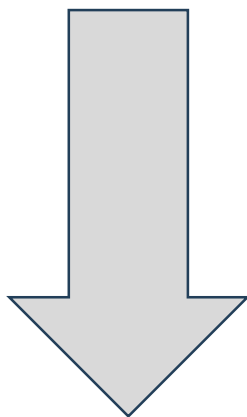
- (1) 選抜は、学力検査 400 点と口述試験 200 点の計 600 点で行います。配点、出題範囲は以下のとおりです。
- (2) 最低基準点は、学力検査、口述試験のそれぞれ 50%とし、これに満たない場合は不合格とします。
- (3) (2)で不合格となった者を除き、総得点の高得点順位の者から合格者とします。
- (4) 英語は学力検査を実施せず、TOEFL 又は TOEIC(L&R)のスコアで評価します。(5 年以内のスコアを対象とし、TOEFL ITP, TOEIC(L&R) IP のスコアも可とします。ただし、オンライン受験によるスコアは不可。)

ア 学力検査等の配点

課 程 ・ 専 攻 ・ 専 修				配 点			口述試験	計	
				学力検査					
				英語	数学	小論文			
学 校 教 員 養 成 課 程	義 務 教 育 専 攻	ICT 活用支援専修		100	200	100	200	600	
		教科指導系	算 数 ・ 数 学 専 修						
			理 科 専 修						
			ものづくり・技術専修						
	高 等 学 校 教 育 専 攻	開 発 系 教 科 学 習	数 学 専 修						
			理 科 専 修						

イ 出題範囲

- (ア) 数学の出題範囲は、以下のとおりです。
 - ・微分積分
 - 1.微分
 - 2.積分
 - 3.関数の展開
 - 4.偏微分(2変数)
 - 5.重積分(2変数)
 (微分方程式は範囲としない)
 - ・線形代数
 - 1.ベクトル
 - 2.行列と行列式
 - 3.線形変換
 - 4.固有値とその応用
 (ベクトル空間は範囲としない)
- (イ) 小論文は、全専修で共通の問題を課します。
- (ウ) 口述試験は、複数の教員により集団で行い、教科に関する内容及び教職への意欲・適性などを総合的に判断します。



2. 入学者選抜方法

令和 10 年度第 2 年次編入学試験選抜（変更後）

- (1) 選抜は、英語 100 点、小論文 100 点及び A P 試験 300 点の計 500 点で行います。配点、出題範囲は以下のとおりです。
- (2) 最低基準点は、総点の 50% とし、これに満たない場合は不合格とします。
- (3) (2) で不合格となった者を除き、総得点の高得点順位の者から合格者とします。
- (4) 英語は学力検査を実施せず、TOEFL 又は TOEIC(L&R) のスコアで評価します。(5 年以内のスコアを対象とし、TOEFL ITP, TOEIC(L&R) IP のスコアも可とします。ただし、オンライン受験によるスコアは不可。)

ア 学力検査等の配点

課 程 ・ 専 攻 ・ 専 修				配 点			
				英語	小論文	A P 試験	計
学 校 教 員 養 成 課 程	義 務 教 育 専 攻	ICT 活用支援専修		100	100	300	500
		教 科 指 導 系	理 科 専 修				
			ものづくり・技術専修				
	高 等 学 校 教 育 専 攻	開 教 発 科 系 学 習	理 科 専 修				

イ 出題範囲

(ア) 小論文では、教育への関心・問題意識及び教職への意欲を総合的に判断します。

(イ) A P 試験については、下記内容で行います。

支 援 専 修 I C T 活 用	複数の教員による個別もしくは集団面接により、A P 試験時間内に情報教育の内容に関して、口頭や筆記（両方もしくは口頭のみ）により問います。また、教職志望理由書などを用いて、教職への意欲・適性などを総合的に判断します。
理 科 専 修	義務教育専攻・高等学校教育専攻ともに複数の教員による個別もしくは集団面接により、A P 試験時間内に理科（物理・化学・生物・地学）の教科内容に関する質問の解答を筆記させ、その解答を基にした質疑応答を行います。また、教職志望理由書などを用いて、教職への意欲・適性などを総合的に判断します。
技 術 専 修 もの づ くり ・	複数の教員による個別もしくは集団面接により、A P 試験時間内に技術の教科内容に関して、口頭や筆記（両方もしくは口頭のみ）により問います。また、教職志望理由書などを用いて、教職への意欲・適性などを総合的に判断します。

※ A P 試験は「アドミッション・ポリシーに基づく試験」のことで、本学が望む学生像に必要な学力を面接のなかで測るものです（筆記等を含むことがあります）。

3. 免許教科の決定について

令和8年度第2年次編入学試験選抜(現行)

ICT活用支援専修の志願者対象

・免許教科について

義務教育専攻 ICT 活用支援専修においては、1科目の中学校教員免許状（二種もしくは一種）を取得することができます。この教科を「免許教科」と呼び、入学前に希望教科を選択していただく必要があります。

なお、免許教科は、入学手続時に行う意向調査に基づき、大学が決定します。できる限り希望に添うように各教科への割り振りを行います。特定の教科に希望が集中することなどにより、必ずしも第1希望の教科を履修できない場合も考えられることをご承知おきください。

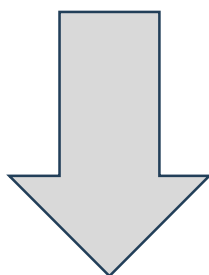
また、免許教科の決定後は、いかなる理由があっても、変更は一切認められません。

決定した免許教科の専門教育科目の授業では、当該教科について知識や能力の高い専攻学生とともに学ぶことになることから、以下に、各免許教科に関する学修に当たっての要望やアドバイスを提示しますので、入学手続時の意向調査の際には、慎重に免許教科を選択することを求めます。

専修	免許教科	数 学	理 科	技 術
	ICT 活 用 支 援 専 修	○	○	○

(参考・教科を選択するに当たっての留意点)

	教科を選択するに当たっての要望・アドバイス（例：高等学校などにおいて身に付けておくことが望ましい素養や、こうしたレベルの学修が求められるといった目安など）
数学	数学専攻科目の授業は「数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ, A, B」を履修済みであることを前提に行われます。それらの科目の未履修者に対する補習授業は行っていないので、未履修の人は自学自習の必要があります。例えば、「数学Ⅲ」を未履修の人は、大学の授業とは別に175時間（注）を目安とする自学自習が望まれます。 （注）「数学Ⅲ」は5単位の科目で、1単位あたり35単位時間の学習時間量が必要であることが学習指導要領に示されています。
理科	自然科学に幅広く関心を持ち、自然科学のどの分野の学習に対しても粘り強く取り組んでください。また、高等学校の理科教科書の章末問題を解くなど、入学前にしっかりと復習をしておいてください。
技術	ものづくりと技術に関わる木工・金工・栽培・機械・電気・情報の各分野に広く関心を持ち、実習を含め根気よく意欲的に学びに取り組むこと。



3. 免許教科の決定について

令和 10 年度第 2 年次編入学試験選抜（変更後）

ICT 活用支援専修の志願者対象

・免許教科について

義務教育専攻 ICT 活用支援専修においては，1 科目の中学校教員免許状（二種もしくは一種）を取得することができます。この教科を「免許教科」と呼び，入学前に希望教科を選択していただく必要があります。

なお，免許教科は，入学手続時に行う意向調査に基づき，大学が決定します。できる限り希望に添うように各教科への割り振りを行います。特定の教科に希望が集中することなどにより，必ずしも第 1 希望の教科を履修できない場合も考えられることをご承知おきください。

また，免許教科の決定後は，いかなる理由があっても，変更は一切認められません。

決定した免許教科の専門教育科目の授業では，当該教科について知識や能力の高い専攻学生とともに学ぶことになることから，以下に，各免許教科に関する学修に当たっての要望やアドバイスを提示しますので，入学手続時の意向調査の際には，慎重に免許教科を選択することを求めます。

専修	免許教科	数 学	理 科	技 術
	ICT 活用支援専修	⊖	○	○

（参考・教科を選択するに当たっての留意点）

	教科を選択するに当たっての要望・アドバイス（例：高等学校などにおいて身に付けておくことが望ましい素養や，こうしたレベルの学修が求められるといった目安など）
数学	数学専攻科目の授業は「数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ, A, B」を履修済みであることを前提に行われます。それらの科目の未履修者に対する補習授業は行っていないので，未履修の人は自学自習の必要があります。例えば，「数学Ⅲ」を未履修の人は，大学の授業とは別に 175 時間（注）を目安とする自学自習が望まれます。 （注）「数学Ⅲ」は 5 単位の科目で，1 単位あたり 35 単位時間の学習時間量が必要であることが学習指導要領に示されています。
理科	自然科学に幅広く関心を持ち，自然科学のどの分野の学習に対しても粘り強く取り組んでください。また，高等学校の理科教科書の章末問題を解くなど，入学前にしっかりと復習をしておいてください。
技術	ものづくりと技術に関わる木工・金工・栽培・機械・電気・情報の各分野に広く関心を持ち，実習を含め根気よく意欲的に学びに取り組むこと。